



俵 万智選

仲直りするのはこと決めていた寿司屋の閉店告げる貼り紙 東京都 玉井 洋介

【評】閉店によって、仲直りのチャンスは奪われたのだろうか。氣勢を削がれたようにいて、かつこの言い訳ができたようでもある。本来なら自分が決断することが、外的要因で揺らぐ……人生の一面を考えさせられる。

水底に映るアメンボのシルエット水とう文字がすいすい泳ぐ 岡崎市 みかみただし

【評】「とう」というの古い表現。昆虫だが四本足に見えるアメンボは、まさに「水」という文字のよう。直喩に説得力がある。

みやことう妻の名のつく南瓜の少し固めのほくほくが好き 神戸市 末永 拓男

【評】弾むような下の句が魅力。カボチャが好きという歌なのだが、同時に妻が好きという気持ちも伝わってくる。ごちそうさま。

風船が空高く飛び消えてゆく想い出はもう見なくても済む 金沢市 山本 葉舟

最古とは一番最初はじまりと古さが同居してゐる不思議 八王子市 土屋ひろ菜

幾つもの日傘の上に乗って猛暑が出荷されてゆく夏 高島市 宮園佳代美

トーストのバターが溶ける絶景に小麦畑を走る犬みる 西宮市 秋津 しま

絵葉書を選ぶ時間も旅なれば見知らぬ町の午後 はゆるやか 前橋市 西村 晃

鈍色の蝶にすばやく伸びる手よエレベーターはまだ乗れるのに 東京都 富見井高志

情報収集のためにいいねを押している全然よくない地震のポスト 熊本市 夏風かをる



黒瀬 珂瀾選

新しき職場の門に立ちていざ翔べた名残の肩甲骨張る 印西市 塩田 幸子

【評】肩甲骨は翼の跡。若い頃は新しいことにすすむに挑戦できた。しかし今は、勇気を振り絞らないといけない。それでも昔日の経験信じ、新しい職場に臨むのです。

「介護にも卒業の日が来るしっかりね」卒業生の友が励ます 桐生市 高橋ゆみ子

【評】介護生活を経てきた先輩の声。大変だけれど必ず終わりが来る。それまでは色んな人の手助けや励ましを受けながらやっていきましよう。先輩のアドバイスも聞きつつ。

鬼百合の花びらのごと身を反らしバーを越えゆく高跳びの少女 京都市 峰尾 秀之

【評】陸上競技の躍動の一瞬。大きく反った鬼百合の花びらを思わせるほどにしなやかな少女の身体が、活き活きと描かれました。

久々に墓を見たぞと妻に告ぐ手の甲使い説明しつつ 真庭市 小谷 義孝

ランドセル代はりに陸軍の背嚢を担がされたり入学式に 新潟市 斎藤 斌

みずみずしきスイカ冷やさず食むときのわれは誰かの労苦をする 可児市 阿坂 れい

いつの日か嘘の報いを受けるだろう紋白蝶を喉に詰まらせて 東京都 遠野 鈴

地下街にロッククライマーの鼠あて容易く登るピザ屋の絶壁 一宮市 今出 公志

この夏も酷暑くしくしと蟬の啼き日本列島は焼き芋となる 角田市 豊岡 浩一

令和なら織田信長はパワハラで訴えられて死なずにすんだ？ 熊谷市 間中 昭

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、〇〇先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はしゅくだい